



K120.73

37

2

北京元堂書房發行

緒言

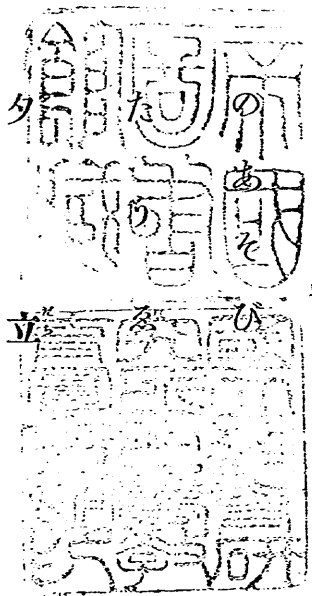
一本書ハ文部省著作尋常小學讀本中ニアル韻文ニ曲譜ヲ附セルモノナリ

一本書ノ曲譜ハ學校教料用及ヒ家庭用ニ適應セシメンカタメ斯道ニ多年經驗アリ令聞アル東京音樂學校教官内田象太郎全楠美恩三郎全岡野貞一ノ三先生ニ依囑シテ成リシモノナリ

一本書ノ歌詞歌曲ノ調和ニツキテハ三先生ノ特ニ注意ヲ拂ハレタル所ニシテ兒童ノ品性ヲ陶冶シ美感ヲ養成スルニハ極メテ適切ナルモノト信ス

注意 一音符ニ二文字ノ配當セルハ其音長ヲ二等分スヘキモノトス

定本 小學讀本唱歌集 卷の中目次 (尋常の部)



元 冠

としのくれ

北白川宮

明治
37 5 28
内寮

のあそび

〜調四拍子 ♩=132



	5	3	3	3	2	3	1	1	1	6	5	1	3	1	2	0
一	ハ	ル	ガ	キ	タ	ハ	ル	ガ	キ	タ	ド	コ	ニ	キ	タ	
二	は	な	が	さ	く	は	な	が	さ	く	ど	こ	に	さ	く	
三	ト	リ	ガ	ナ	ク	ト	リ	ガ	ナ	ク	ド	コ	デ	ナ	ク	



	5	5	6	5	3	2	3	1	6	5	1	3	2	1	0
ヤ	マ	ニ	キ	タ	ノ	ニ	キ	タ	サ	ト	ニ	キ	タ		
や	ま	に	さ	く	の	に	さ	く	さ	と	に	さ	く		
ヤ	マ	デ	ナ	ク	ノ	デ	ナ	ク	サ	ト	デ	ナ	ク		

◎ のあそび

(一) 春がきた。春がきた。

どこにきた。

山に、来た。野に、来た。 さとに、来た。

(二) 花がさく。花がさく。

どこにさく。

山に、さく。野に、さく。 さとに、さく。

(三) 鳥がなく。鳥がなく。

どこで、なく。

山でなく。野で、なく。 さとで、なく。

た り ゑ

變ロ調四拍子 ♩=132

5. 5 6 5 | 3. 3 5 i | 3. 3 2 i | 2. 0 |

一 イー マ ハ イ ソ ガ シ タ ウ エ ド キ
二 これ から た び た び た ぐ さ と り

i. i 2 i | 6. 6 5 3 | 2. 1 3 2 | 1. 0 |

コ コ デ ハ ウー マ ニ タ ラ ス カ セ
し だ い に て か ず が ふ え て い く

2. 2 5 5 | 3. 3 6 6 | i. i 5 3 | 6. 0 |

ソ コ デ ハ ナー ヘ ラ タ ニ ウ エ ル
ど ー ぞ わ き ま で つ ぶ ー よ く

2. 2 i 2 | 6. 5 3 | 2. 1 3 2 | 1. 0 |

ス カ セ ル ウ エ ル イ ソ ガ シ ヤ
て ん き も つ づ け あ め も ふ れ

◎ た り ゑ (讀本卷五)

(一) いまは、いそがし、たうゑどき。

ここでは、馬に 田をすかせ、

そこでは、苗を、 田に、うゑる。

すかせる。うゑる。いそがしや。

(二) これから、たびたび、 田草とり。

しだいに、てかすが ふえていく。

どうぞ、あきまで、 つごよく、

天気もつづけ。 雨もふれ。

◎ 夕ツキ 立たち

(讀本卷五)

(一) 見るまに、くもる 青い空。

ぴかぴか、ひかる いなびかり。

なりだすかみなり、

ごろごろごろ。

(二) また、なる、ひかる、そのうちに、

木のはをうって、屋根うって、

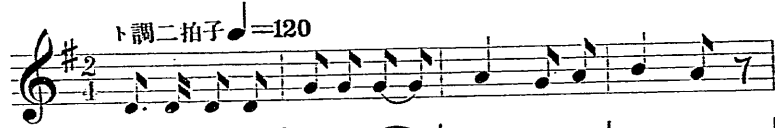
ふりだすおほあめ、

ばらばらばら。

(三) つづいて、光る。なる。光る。

雨は、だんだん、ひどくなる。

夕 立



	5.	5	5	5		1	1	1	1		2	1	1		3	2	0	
一	ミ	ル	マ	ニ		ク	モ	ル	ー		ア	ヲ	イ		ソ	ラ		
二	ま	た	な	る		ひ	か	る	ー		そ	の	う		ち	に		
三	ツ	ヅ	イ	テ		ヒ	カ	ル	ー		ナ	ル	ヒ		カ	ル	テ	
四	や	ー	が	て		あ	め	や	み		そ	ら	は		れ	て		



	5	5	6	6		5	5	3	3		2	2	2	2		5	0	
	ビ	カ	ビ	カ		ヒ	カ	ル	ー		イ	ナ	ビ	カ		リ		
	こ	の	ま	を		う	つ	て	ー		や	ね	う	つ		て		
	ア	ー	メ	ハ		ダ	ン	ダ	ン		ヒ	ド	ク	ナ		ル		
	い	ー	つ	か		ひ	が	で	て		に	ヒ	が	で		て		



九

	1	1	5	5		1	1	3	3		2	2	5	5		1	1	0	
	ナ	リ	ダ	ス		カ	ミ	ナ	リ		ゴ	ロ	ゴ	ロ		ゴ	ロ		
	ふ	り	だ	す		お	ほ	あ	め		ば	ら	ば	ら		ば	ら		
	ノ	キ	バ	ノ		ア	マ	ダ	レ		ホ	チ	ホ	チ		ホ	チ		
	く	さ	き	に		し	づ	く	が		き	ら	き	ら		き	ら		

(四)

やがて、雨やみ、空はれて、

いつか、日が出て、にじが出て、

草木にしづくが、

きらきらきら。

のきばのあまだれ、

ほちほちほち。

◎ 元 寇

(讀本卷六)

(一) 今からむかし、六百年、

ころは弘安四年の夏、

元の國から、わが國に、

よせたるてきは十餘萬。

(二) わが日本の武士は、みな、

「おのれ、につくき、元軍め。

日本男子のうで見よ。」と、

すすんで、てきをやぶりたり。

(三) このとき、大風ふきあれて、

なみは、山より、まだ、高く、

元 寇

ト調二拍子 ♩=120



5. 5 5. 5 | 1. 1 1. 1 | 3. 3 2. 1 | 2 0 |

一 イマカラ ムカシ一 ロッピク ネッ
二 わがにっ ぼんの一 ぶしは み な



3. 4 5. 5 | 3. 3 1. 1 | 2. 2 2. 2 | 5 0 |

コ一ロハ コ一アッヨ ネンノナ ツ
お一のれ にっくき げんぐん め



6. 6 6. 7 | 1. 1 5. 5 | 1. 2 1. 2 | 3 0 |

ゲンノ一クニカラ ソガクニ ニ
にっ ぼん だんじの うで みよ と



5. 5 5. 5 | 3. 4 5. 5 | 6. 6 5. 5 | 1 0 ||

ヨセタル テキハ一 ジューヨマ ン
すすんで てきを一 やぶりた り

(四) あ一^{げん}元軍の十餘萬⁺

てっかん、四千、くつがへり、

こはれて、海にしづみたり。

にげたるものは、わづかにて、

あとは、のこらず、わが國の

海にしづみてしまひたり。

◎ としのくれ

(讀本卷六)

(一) 「花がさいた。」と　いふうちに、

いつか、野山が　青くなり、

「あつい。あつい。」と　いふうちに、

いつか、木のはが　あかくなる。」

(二) はちり、しもふり、　雪ふりて、

白くなりたり、　山のみね。

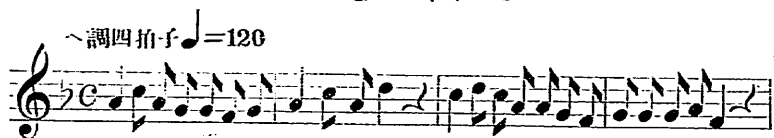
あゝ。今月は　十二月。

あゝ。もうけふは　二十日すぎ。

(三) 十日たたぬに、　としもとり、

花が、また、さく　四月には、

としのくれ



〜調四拍子 ♩=120
 | 3 5 3 2 2 1 2 | 3 5 3 6 0 | 5 6 5 3 3 2 1 | 2 2 2 3 1 0 |

一 ハナガサイタト イッウチニ イツカノキマガ アチクナ
 二 ほちりしもふり ヨッふりて しるくなりたり やまのみれ
 三 トチカタヌニ トモトリ ハナガマタサク シガツニハ
 四 ニしはすこし やんだが もらいぬんは やすまんぞ



| 2 1 2 3 3 5 3 | 2 2 2 1 2 0 | 3 5 3 6 6 5 3 | 2 2 2 3 1 0 |

アツイアツイト イッウチニ イツカヨノハガ アカタナル
 らこんげーつは じかにかつ あしーけふーほ ほつかすき
 ヨネンセイニモ ボクハナル ナマケルコートハ テキハセン
 あめがふつても さむくても やみはせーんぞ せいだすぞ

(四)

四年生にも、

ぼくは、なる。

なまけることが

できはせん。

ことしは、すこし、

休んだが、

もう、來年は、

休まんぞ。

雨がふつても、

さむくても、

休みはせんぞ。

せい出すぞ。

◎ 北白川宮

(讀本卷六)

(一) 明治の二十八年に、

臺灣島におこりたる

わるものどもを

しづめんと、

北白川宮殿下、

多くの軍人ひきつれて、

勇んで、おいでなされたり。

(二) ちよーど、六月、七月の

暑さきびしき、そのうへに、

水はすくなく、食たらず、

山はけはしく、道わるし。

いくさにつよき軍人も、

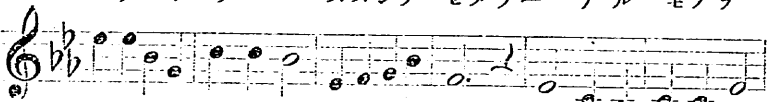
北白川の宮



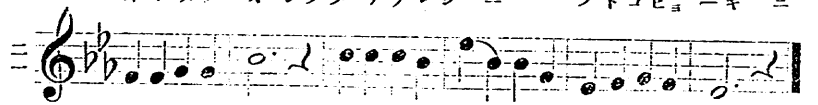
1-6 5 | 1 1 2- | 3 3 5 1 | 2-0 | 6-6 5 | $\dot{1}$ 5 5 3 |
 一 メイジ ノ ニジュー ハチネン ニ タイワン ト—ニ
 二 ち— ど ろく が、しちがつ の あつさ きびしき
 三 ミヤ ハ ナンギヲ イトハレ ズ グンジン ド—モヲ



1 2 3 2 | 1- 0 | 2 2 3 3 | 1 1 2 2 | 3- 5- | 3 5 6 0 |
 オコリタル ワルモノ ドモヲ— シツ メント
 そのうへに み—づは すくなく し、く たらす
 ハゲマシテ ススンデ セメテ— ワル モノヲ



$\dot{1}$ $\dot{1}$ 5 3 | 6 6 5- | 1 2 3 5 | 2-0 | 1-6 5 | 6 6 1- |
 キタシラ カハノ ミヤデン カ オホクノ グンジン
 や—まは けはしく みらゐる し い、さに つよき
 オホカタ オシツメ ナサレシ ニ フトゴビ—キ ニ



2 2 3 3 | 5- 0 | 6 6 6 5 | $\dot{1}$ 5 5 3 | 1 2 3 2 | 1- 0 |
 ヒキツレテ イサンデ オ—イデ ナサレタ リ
 ぐんじんも このなんぎ—には よわりた り
 カカラレテ フ—ンヤ オカクレ ナサレタ リ

このなんぎには、よわりたり。

三 宮はなんぎをいとはれず、

軍人どもをはげまして、

すすんで、せめて、わるものを、

おほかた、おしづめなされしに、

ふと、御病氣にかかれて、

をしや、おかくれなされたり。

明治三十七年五月廿六日發行

尋常小學讀本唱歌集庚部

定價
尋常の部
巻の上
巻の下
七・七九
錢銀錢

著者權所有

作曲者

內田 象太郎

全

楠美 恩三郎

全

岡野 貞一

發行者

元々堂 書房

右代表者

中村 銀次郎

印刷者

近藤 廣太郎

東京市京橋區銀座四丁目十五番地

元々堂 書房

發兌元

晃山堂 書房

發賣所

東京市京橋區弓町

松村三松堂

關西大賣捌所

大坂吉岡寶文館

